

留学生インターンシップ

“ 発表交流会 ” 開催

H18.11.16 ホテルコンチネンタル横浜

初年度として、今夏実施した留学生インターンシップ推進グループによる成果発表交流会を開催。企業・大学関係者等から約80名が参加した。

冒頭、高橋会長は「企業がグローバル業務の重要性が増す中で、留学生の人材活用は重要であり、国際的な神奈川で留学生受入れの先鞭をつけるべく、小さく生んで大きく育てるような活動にしていきたい」と参加者に呼びかけた。

留学生インターンシップは当協会会員の9企業が三日間から二週間の日程で、各企業が独自のカリキュラムを工夫し策定、3大学から20名の留学生が日本の企業・現場を体験した。

発表は各企業単位で10分程度、留学生と企業責任者がペアになり自由に進められた。

体験をした留学生からは日本企業の次のような特徴を流暢な日本語で、この貴重な機会を是非、後進にも体験させたいので来年度以降も続けて欲しいと強く希望した。

規則正しく、チームワーク性が強い。

業務量が多く、ハードであった。

日本は男女差別が多いという先入観があったが、実際に仕事してみると全く違っていた。(女性社員自ら制度変更を提案)

実施先での社会貢献活動を体験し、仕事をする意味、どのような道に進むか、今後の選択をする良い機会となった。

もっと様々な体験できるよう、更に長い期間の受入れをお願いしたい。また受け入れ企業の選択幅を増やして欲しい。



企業からは感想や反省点も含め、次年度の積極的な受入れ表明があった。

留学生の印象は非常に礼儀正しく、真面目で目的意識もあり仕事にも積極的に取り組んで学生らしく何でも吸収しようという意欲を感じ、教える側のモチベーション向上にも繋がった。

留学生の日本語習得度が高く、逆に現代日本人の言葉の乱れを感じるほどであるが、会社の専門用語などの説明には気を使った。

短い受入れ期間のカリキュラム設定に際し、来年度以降は会社の技術における理論・からくりを効率良く理解してもらうための工夫や学生の専門性に配慮した実習が組み込めるための工夫を図りたい。

また、発表を終えた留学生には高橋会長から箱根寄木細工の記念品が贈与された。

事務局から実施後のアンケート結果の発表後、NPO早稲田留学生人材サポートセンターの元代表理事である包(バオ)氏から留学生の就職難問題から留学生人材を活用する上での課題や方法などの講演があった。

最後に横浜国立大学の飯田学長から、留学生として生活をすればある程度、日本の生活文化も分かるが独自の企業文化についてはインターンシップによって初めて理解でき、今後留学生の社会人生活に大きな糧を得たと思う。外の世界を知ることとは結果として自分の事を知ることであり新たな発見がある。印象的な事は企業の方も留学生から教えられたという発表があり、お互いの文化を認め合うことに加えお互いの立場を理解しあうという意味で我が国がグローバル化できる事を実感した。と締め括った。

その後の交流パーティには留学生を囲み、日産自動車のご協力を得て作成された実習風景ビデオが放映され、交流を深めた。